

千年の学校

■匠講座

「炭のある暮らし、炭を使った楽しみ方」を開催

匠講座「炭のある暮らし、炭を使った楽しみ方」が2月19日（日）、平田地区にある大石博人さんの炭焼き窯と平田公民館で行われました。今回35人の生徒が参加し、前回焼いた炭の窯出しとその炭の加工を前回同様、大石博人さん（接岨）と大村明孝さん（千頭）を講師に行いました。

炭出しでは、前回生徒が入れた「カボチャ」や「松ぼっくり」「ツルで編んだかごやリース」もきれいな炭に焼き上がっており、窯から出された瞬間、生徒からは「おー」という歓声が上がりました。その後場所を平田公民館に移し、炭の加工を行いました。生徒は、炭の加工の注意点を聞いた後、タペストリーやリースなど、思い思いに作品を作りました。また、炭を焼いたときに採った木酢液をおみやげにもらいました。



自慢の作品を手に、生徒のみなさん



小田切 駿くん

〈H17. 3. 23生 徳山〉

父：勝志・母：早織

駿ちゃん、1歳だね。おめでとう。にいに勉強している隣で、只今「立っち」の練習中。そんなボクをねえねがすーぐ抱っこしてくれたり…。にいに、ねえねも駿ちゃんがいてくれると幸せだよ。ずっと仲良くね。



澤本 京太くん

〈H17. 3. 12生 高郷〉

父：和也・母：みどり

京くん お誕生日おめでとう。いろいろ覚えてまねしたり…。どんどん大きくなっていくね。これからも、いっぱい食べて、よく遊んで、大きくなってね。

こちら 川根校



川根高等学校教頭
杉本 唯夫

魅力ある学校づくり 〜特進クラスの設置〜

12月上旬、理系進学8人の少人数クラスの成果が現れ、国公立大学に3人の生徒が合格しました。そして公務員に2人の合格、就職率100%と一期生として素晴らしい実績を残しました。しかしながら今年度は、連携中学校から川根高校への志願者は昨年度を下回っていました。12月中旬「なぜ川根高校に來ないのか」「川根高校に魅力はない

のか」「四組、進学クラスに對して不安があるのか」「信頼され、魅力ある学校にするためにはどうしたらよいか」甲野藤校長の提案で11人の教員を募り『川根高校の未來を語る会』を開催しました。今ややっていることが10年後に反映します。「進学に力を入れる」「部活動の充実を図る」「一流企業に入れる」どこかに特化していかなければ共倒れになります。「一期生が少人数クラスで国公立大3人合

格という素晴らしい実績を上げているし特化するのならまずは進学だ。だれでも入れるクラスではなく試験で選ばれた特進クラスを作ろう」ということになりました。

特進クラスは国公立大学、私立難関大学を目指します。進路を最重点とした進路指導体制をとり、同窓会の奨学金（月1万円）を貸与し、支援していきます。3年後には国公立大5人以上、5年後には10人以上の合格者を出すのが目標です。平成18年から始まる「特進クラス」川根高校の大きな魅力になるよう教職員一丸となって取り組んでいきます。

■編集後記

中央小卒業式で、入場する卒業生の緊張した面もちに、「自分もこんな時があったんだよな」と思いました。年数を重ねると、どうしても始めた頃の気持ちを忘れてしまいがち、やはり節目は大切です。春を迎え、新たな気持ちで色々なことに取り組みたいですね。(N)